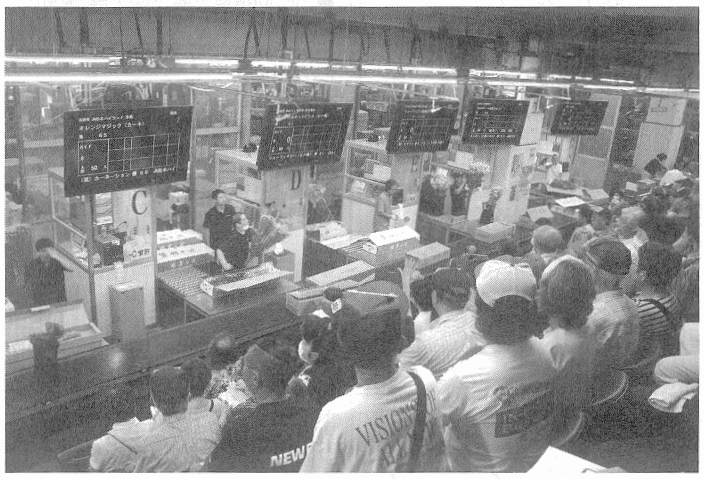
第一花き新システム

パーソナル情報と共に遂行

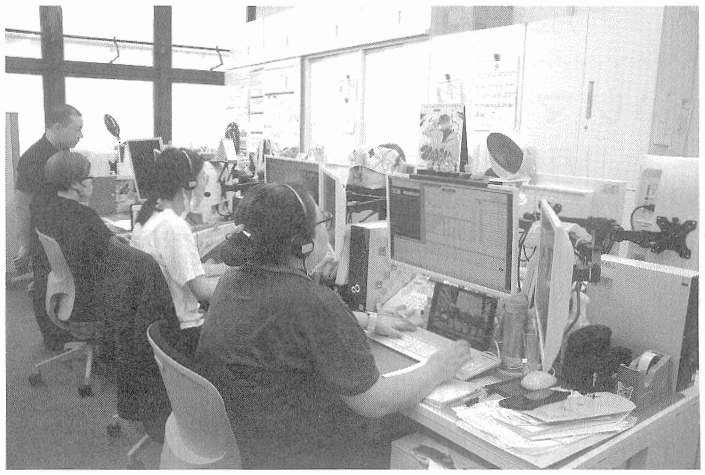
卸売市場を展開する㈱第一花き（松本頼明代表取締役社長）は、1988年4月25日に東京都中央卸売市場初の花き部となる北足立市場で業務開始、今日までに36年が経過した。

そこで3年前から、施設老朽化や山積する業務改善に対応するためリニューアルに取り組む。構想では、手ゼリの伝統を継承しつつ、立川支社・柏支社・小山支社とシステムでつなぎ、一つの会社として基盤整備と業務改革を進める大規模なプロジェクトで、生鮮ソリューションサービス専門のパーソナル情報システム㈱（森本晋司代表取締役社長、PJS）と遂行している。

今回、生産者・買参人の事業、そして花き業界発展へつながるシステム構築に、大型投資で取り組む熱い思いを、第一花き取締役（総務部兼業務管理部部長）の田先仁美氏に取材した。



第一花き本社のセリ風景



環境を整えて遠隔でオペレーション

効率・働きやすさ追求

手ゼリ維持　人材確保も

今回のプロジェクトは、①効率良い運営・経営②手ゼリを長く維持するための人材確保③社員の働きやすさを含む働き方改革―の3つを柱にスタート。

水道光熱費、特に電気代が上がる中、昨年、総務部・電算課・業務課と3カ所に分かれていた事務所を、リフォームした一室にまとめた。エアコンやコピー機、FAXなど各所でそれぞれ使用していた稼働も減り、互いの業務の理解や仕事を共有する流れが生まれた。それが仕事の平準化につながり、新しい雇用なしに人材不足も解消、きれいな環境で皆が前向きになった。

セリ場も、7レーンそれぞれセリ人についていたオペレーターが、事務所で遠隔で入力できるように整備。それまで7つのオペレーター室にエアコンを設置していたが、それも不要となりコスト削減を実現。セリの遠隔入力は支社分も担える。

また、精密機器故障を防ぐための防塵対策として、特注ケースに入れ、表示用のディスプレーにもシールドを付けた。セリ場のつぎはぎだらけだったケーブル、電気回路をすべて廃棄、新設を徹底。休市となるお盆の8月15日から18日までの4日間に完遂すべくPJS、電気工事会社、機器の納入会社等のワンチームで綿密に計画を立てた。

売り上げを伸ばすことも当然だが、想定する売り上げの幅でいかに効率良く経営するかを考えなくてはならない。システムの入れ替えは2021年にスタートした。それまで、本社はオフィスコンピューター、支社はPJSの花きERPと違うシステムだったが、両方を捨て、ゼロから基幹システムを開発してもらい3年目。市場5階に分室を作って、毎日その場で理想型のシステムを作ってくれたことに感謝している。花市場の仕事をしたい、理解したいとのスタンスで、SEも来社いただき、使い手である現場の声も反映し、卸売市場特例があったインボイスも一緒に理解しようとしてくれ、花き市場の中でいち早く対応できた。

入金機。入金データは基幹システム、会員サイトに反映

来場者登録、買上伝票発行機も防塵対策

データ連携範囲広く

運送業も預かり運賃、横持ち運賃と、花業界では運賃体系が複雑で可視化することが難しかったが、運送向けにインボイスを吐き出せるようにすると、荷物の流れがよく見える。業者情報も共有できるメリットがある。

普通は、仕様設計条件は発注主がしっかり持っていないと開発してくれないが、PJSは、卸売市場にこういうことができたら便利ではないですか?と提案する気持ちがある。PJSも市場間連携に関しては悩まされてきたと思うが、これから卸、仲卸、出荷者がどうデータ連携をシームレスにしていくかがものすごく重要。

いろいろな会社に活用していただきたい花市場の無敵なシステムが出来上がったと自負している。各社から聞かれるが、発注はPJSへと言っている。システムを1社にまとめるリスクもあるが、PJSに対する信頼が勝っている。会社が変わる時不安だったが、安心して任せられるようになった。

生産者は、即日仕切書のデータを無料でダウンロードでき、フォーマットは他の花業界のシステムにインポートしやすいフォーマットに寄せて、手間の軽減につながる努力をしている。周りのシステムをウォッチし、花き業界の問題を理解しクリアにする。卸のシステムを作るだけでなく、これからは、どれだけ外のシステムと連携しやすくするかが重要。

10月1日からは請求書送付は廃止し、インターネットで見られる環境にしメールアドレスに配信する。厳しいお声も頂戴したが、これから電気やガスと検針票は来ない。花業界だけFAX、郵便に頼っていたらレベルが上がらない。お客様も一緒にITスキルを上げ、業界全体が商売を拡大する。

立川、柏、小山は同じシステムで、本社が事務拠点として一括管理ができる。小山には事務員は置かずにスタートできた。生産者はどの市場にも出荷可能で、買参人は支店の荷物も購入できる。商談も本社でできる。まだまだそれぞれを個の市場として見られているが、第一花きは一つの会社であるということを伝えていきたい。

DXは、機械を入れて終わりでなく、使いこなす人間を育てる環境を整えること。向上心を持たせるオフィスへとつながっていく。